地方長官会議における福島県知事の地方事情奏上と昭和天皇の下問

竹永三男*

キーワード：地方長官会議　昭和天皇　下問　地方事情奏上　福島県知事

【解説】

（一）これまでの地方長官会議研究と今後の課題

内務省が主催する官選知事の全国会議である地方長官会議は、毎年一回から多い年には三回、北海道庁長官から沖縄県知事まで（時には植民地の地方長官を含め）、これを東京に招集し、一堂に会して開催される。府県長官の全国会議としては、一八七五年・一八七八年・一八八〇年の三回開催された地方官会議が知られる。『内務省史』第三巻（大霞会、一九七一年）は、この地方官会議を含めて、その後の一八八一年から、「府県制」が廃止されて「地方自治法」が公布・施行される一九四七年まで、地方長官を招集して毎年開催されている会議の一覧を提示している。

これまで筆者は、この会議について、①その概要と機能の把握（竹永一九九二年、二〇〇四年）②会議の性格・特徴の段階区分（二〇〇五年a）、③内務大臣原敬による会議改革と確立過程（一九九六年）および、④郡市長会議・町村長会議を通しての会議方針の全国的浸透過程の究明（二〇〇四年）、⑤明治天皇・昭和天皇の地方長官会議への関わりと下問・地方事情奏上の実態の提示（一九九二年、一九九五年、二〇〇五年b、二〇〇六年、二〇〇八年b、二〇一一年）、⑥戦時・戦後の地方長官会議の内容の把握（二〇〇八年a、二〇〇九年、二〇一〇年）、⑦地方長官会議における部落改善政策・融和政策の位置づけの明確化（二〇〇五年a）、⑧地方長官会議に関する都道府県庁文書の史料学的検討（二〇〇八年b）を行ってきた。これらの作業を通して、地方長官会議の概要とその段階的変化の大要を把握することができたが、地方官会議から地方長官会議への移行期（一八八〇年代～九〇年

*島根大学法文学部

代初頭）の会議実態の検討、アジア太平洋戦争敗戦直前に組織された地方総監会議の成立・展開・廃止過程の究明、総じて地方長官会議の成立期・解体期の検討は、なお課題として残している。また、前稿（竹永二〇〇五年b、二〇〇六年）では、下問と地方事情奏上の持つ意味を、昭和天皇と知事のそれぞれの側から考察したが、調査した地方紙および全国紙府県版が一〇府県に止まっていたため、その全容の解明はなし得ず、また、これを一県の事例に即して系統的に検討することもしていなかった。

（二）知事の地方事情奏上および昭和天皇の下問関係記事の調査と本稿の課題

このような研究経過の中で、筆者は、全国の道府県立図書館および日本新聞博物館新聞ライブラリー等の調査をほぼ終え、各館所蔵の地方新聞もしくは全国紙地方版に掲載された、地方長官会議における昭和天皇の下問と知事の地方事情奏上関係記事（会議直後の新聞に掲載される下問・地方事情奏上の概要と当該地方長官の謹話、会議に出席した地方長官が任地の道府県に帰任した際に掲載される帰庁談話に関する記事）を、四七道府県について網羅的に収集した。地方長官会議が、北海道から沖縄県まで、全国の地方長官を一堂に招集して開催される会議であり、そこでは、内閣・各省の方針が一斉に提示され指示されるとともに、各道府県の実態・個別事情が持ち込まれて両者が突き合わされる「双方向的な地方統轄」の場として機能するということからすれば、前稿の考察を全国各道府県それぞれの事例に即して個別的かつ網羅的に検討することは必要な作業課題である。そこで、本稿では、具体的事例の一つとして福島県を取り上げ、同県の地方紙である『福島民報』を基本に、『福島民友新聞』によって欠を補いながら、昭和天皇の下問と福島県知事の応答および地方事情奏上の全容を系統的に紹介することとする（なお、一八九二年創刊の『福島民報』は自由党・政友会系、一八九五年創刊の『福島民友新聞』は憲政本党・憲政会・民政党系として続いた時期があったとされている。『福島民報百年史』福島民報社、一九九二年。『福島民友新聞百年史』福島民友新聞社、一九九五年）。

（三）福島県知事の地方事情奏上と昭和天皇の下問の概要

地方長官会議における福島県知事の地方事情奏上および昭和天皇の下問と福島県知事の答弁に関する『福島民報』『福島民友新聞』掲載記事は、【史料翻刻】の項に掲げたとおりである。

今、その概要を一覧表にすると、次表のとおりであるが、ここからは、次の特徴を読み取ることができる。

第一に、地方事情奏上および下問の主題について見れば、最も多いものは、福島県の主要産業である養蚕業に関するもので、その一般的景況、恐慌の影響、戦時食糧増産政策の下で行われた桑園減反とその影響・対策などとしてほぼ毎年とりあげられている。また、生産拡充・資源開発の目的で戦時下に推進された猪苗代湖の湖面低下工事、石城地方の石炭増産など福島県固有の問題もとりあげられている。このような県の個別・具体的な事情に即した下問は、「陛下には……よく模

【表】地方長官会議における昭和天皇の下問と福島県知事の地方事情奏上

史料	年	内閣総理大臣	福島県知事	会議開会日	陪食日	知事の地方事情奏上	昭和天皇の下問
1	1927	田中義一	伊東喜八郎	6.24	6.29	養蚕・米麦の産業状態	「牧畜はどうか」
3	1928	田中義一	加勢清雄	6.14	6.20	答 養蚕業一班、養蚕資金融通	養蚕について
5	1929	田中義一	加勢清雄	6.14	6.17	答 銀行休業等の現状	本県の金融状態について
7	1930	浜口雄幸	小柳牧衛	5.20	5.22	銀行と養蚕業の景況	
8	1931	若槻礼次郎	川崎末五郎	4.27	5. 2	答 県下養蚕業の現況	「最近の県情について」
9	1932	犬養毅	村井八郎	1.14	1.14	答「一同極めて緊張ししつかりした 心を持つて業務に励んで居」る	「出征兵の遺家族はどうして居るか」
11	1932	斎藤実	赤木朝治	7.18	7.20	県下農山漁村・中小業者の困窮状態	
13	1933	斎藤実	赤木朝治	4.17	4.21	風水害からの復旧状況、青年の自力更生の自覚	
14	1934	斎藤実	畑山四男美	5. 4	5. 8	東久邇宮師団長の来福と青年訓練所・消防組親閲、矢吹ヶ原開墾の状況	
16	1935	岡田啓介	伊藤武彦	5. 3	5. 3	昨秋の凶作・繭価暴落の影響と皇后の見舞に対する謝辞	
18	1936	広田弘毅	伊藤武彦	6.15	6.15	雪害の状況、２・26事件後の県民の状況、信夫山招魂社改築など郡民一致の状況	
19	1937	林銑十郎	伊藤武彦	5.17	5.17	県下工業発展の状況、郷土部隊の満州出征と銃後後援、県庁舎改築	
20	1938	近衛文麿	君島清吉	1.19	1.19	「各般の救護事業に就ての地方官の報告を厚生大臣より上奏」	
21	1938	近衛文麿	君島清吉	5. 2	5. 2	応召者遺家族及び養蚕・木炭生産の状況 答 町村吏員定数制で解決見込	応召による町村吏員不足に対しその補充方法
22	1939	平沼騏一郎	君島清吉	5. 2	5. 2	県下青年・青年団の状況 答 県下工業発達の大要	最近の工業の状況
24	1940	米内光政	橋本清吉	5. 2	5. 2	時局下の生産拡充・資源開発のための猪苗代湖の湖面低下計画	
28	1941	近衛文麿	江辺清夫	4. 8	4. 8	県下の開墾状況 答 本年の調査で心配なしと判明	猪苗代湖湖面低下の地方民への影響
29	1942	東条英機	江辺清夫	3. 3	3. 3	石炭増産、猪苗代湖湖面低下本工事の竣工 答 桑園減反も生産量は維持	「養蚕の状況はどうか」
31	1943	東条英機	荒木義夫	4.12	4.12	農林水産物の増産確保、有畜農業の普及 答 減反状況と跡作に麦増産	「桑園の整理並にその跡作は如何か」
33	1944	小磯国昭	石井政一	8.23	8.23	文書上奏　猪苗代湖湖面低下後の軍需生産増強・食糧増産への利用状況	「戦局危急云々」勅語
35	1946	吉田茂	石原幹市郎	6.14	6.15	県下一般農作の実情 答 全面普及は未だなるも研究努力	酵母肥料の利用状況
36	1946	吉田茂	石原幹市郎	10.30	10.30	酵素肥農薬利用のその後の研究結果	

出典：『福島民報』『福島民友新聞』により作成
注：①「史料」欄の番号は、史料紹介欄に付した通し番号である。
②「知事の地方事情奏上」欄の 答 は、右欄の「昭和天皇の下問」に対する答えとして述べたものである。

様を御承知になつて居られるには恐懼の外はない」（1）、「各方面へ精通遊ばされるには恐懼に堪えぬ。金融方面の御下問に接したのは恐らく本県のみであらう」（5）、「斯く県下の特殊事情に迄注がせ給ふ大御心に恐懼感激の外はございません」（27）などの福島県知事の「謹話」に見られるように、昭和天皇の「仁慈」が全国一般・国民一般にではなく、福島県と福島県民に向けて個別・特段に注がれていると受け止められ、さらにその「光栄」が県民に宣伝・分与されているのである。重要なことは、このような下問が福島県だけでなく、北海道から沖縄県まで全国四七道府県の全てに対して行われていることである天皇の臣民に対する「一視同仁」は、一般的にではなく、個別具体的な仁慈の発露の普遍化として行われているのである。

なお、このような個別の府県に対する具体的な下問が昭和天皇自身の発案か否かについて、前稿（竹永三男二〇〇六年）では、昭和天皇「自ら下問事項を発案したものと考えておく」とした。しかし、一九三一年五月二日の地方長官会議の場合、侍従武官長奈良武次が、その日記に、「午后〇時半地方長官御陪食、午后四時半終了。此際聖上より青年訓練に付き某々地方長官に御下問ありたき申上げ置きたり。」と記していることからすれば（『侍従武官長奈良武次日記・回顧録』第三巻、柏書房、二〇〇〇年）、側近などの助言・示唆によってなされたものもあると見ておくことが必要である。

第二に、知事の地方事情奏上と昭和天皇の下問の関係では、次のことが指摘できる。一つは、一九二七年の地方事情奏上で養蚕の状況が報告されたのを承けて、翌年、昭和天皇が養蚕について下問したこと、一九三七年の地方事情奏上で福島県における工業発展の状況が報告された二年後に最近の工業の状況について下問されたこと、一九四二年の下問に答えて桑園減反の状況を答弁したその翌年、昭和天皇が桑園整理の状況と跡作について質したことなどのように、知事の地方事情奏上が昭和天皇の下問を引き出していると見られることである。昭和天皇が全国各府県の地域事情を把握する情報源として、地方長官会議における知事の地方事情奏上が具体的役割を果たしていることを示すものと言えよう。その一方、一九三二年の「出征兵士の遺家族」についての下問、一九三八年の応召による町村吏員不足についての懸念、一九四六年の酵母（酵素）肥料に関する質問など、時局の影響や戦後の食糧問題対策など、その時々の重要課題に対する昭和天皇自身の問題関心に発する質問が、知事の予想を超えて発せられていることも見て取れる。一九二九年の場合、前年の養蚕についての下問と当年の霜雹害の発生を承けて、霜雹害に関する下問を予想し、県蚕糸課長を随行して会議に臨んだところ（4）、昭和天皇の下問は「金融業の状況」についてであった（5）。昭和天皇の下問のこのような〈意外性〉が知事に強い緊張感を持たせたことは想像するに難くない。実際、一九四一年四月の地方長官会議に際しての下問で、相川愛知県知事がそのような下問に即答できず、「着任早早のためよく承知してをりませんから十分調査の上、側近の方に申しあげたいと存じます」と答えてその場を切り抜けたような例もあった（『新愛知』一九四一年四月九日）。

以上のように、福島県に即した下問やその時々の重要行政課題を捉えた下問、知事の地方事情奏上に対する昭和天皇の熱心な聴取態度が、知事を「感激」させ、これを光栄と捉えて県民にも知らせていること、さらに自己の職務への精励を誓わせていることが一貫して見られる。

地方長官会議における拝謁・下問と地方事情奏上は、知事を「天皇の官僚」として実態化する場として機能したという前稿での評価は（竹永二〇〇六年）、福島県の事例に即してみても明確に確認できる。

（四）今後の課題

地方長官会議は、官選知事の全国会議として、国家の地方支配機構の中核を構成する会議体である。そして、今回紹介した福島県の事例からは、県の産業経済や地形的特徴に規定された福島県の独自課題が、知事の地方事情奏上にも昭和天皇の下問にも具体的に取り上げられていることが確認できる。

そのことに照らして見れば、地方長官会議は、全国四七道府県を画一的に統轄する仕組みではなく、各道府県独自の地方事情を踏まえた上で、地方統治の主体となる地方長官（知事）を「天皇の官僚」として陶冶・組織する場として機能していたことが確認できる。そのことを具体的・全面的に明らかにするためには、今回紹介した福島県のみでなく、四七道府県の全てについて同様の史料を提示・検討する必要がある。但し、今回紹介した福島県の関係記事だけでもおよそ二万字に及ぶため、収集した関係記事全体の紹介・分析は、別途の方法で一括して行うこととしたい。

〔付記〕本稿で紹介した『福島民報』『福島民友新聞』両紙の閲覧―調査は福島県立図書館で行った。また、新聞記事の翻刻に際しては、木原由里氏の協力を得た。記して御礼申し上げる。

〔竹永三男地方長官会議研究関係文献〕
「地方長官会議に関する覚書」宮川秀一編『日本史における国家と社会』思文閣出版、一九九二年
「近代日本における中央・地方・地域―地方長官会議、同郷会・同郷人雑誌を素材として」朝尾直弘教授退官記念会編『日本社会の史的構造　近世・近代編』思文閣出版、一九九五年
「原敬と地方長官会議―日露戦後における地方長官会議の確立」『島根大学法文学部紀要　社会システム学科編』一九九六年
「第二次大隈重信内閣期の地方長官会議小考」『部落問題研究』一六七、二〇〇四年
「地方長官会議と部落問題」『部落問題研究』一七二、二〇〇五年a
「地方長官会議における昭和天皇の『下問』と知事の『地方事情奏上』―地方新聞の関係記事の検討―」『社会文化論集』第二号、二〇〇五年b
「昭和天皇と地方長官会議―『下問』と『地方事情奏上』の分析―」『ヒストリア』第一九八号、二〇〇六年
「敗戦後の『地方総監及地方長官会議』・『地方長官会議』に関する覚書」相良英輔先生退職記念論集刊行会編『たたら製鉄・石見銀山と地域社会―近世近代の中国地方』清文堂出版、二〇〇八年a
「地方長官会議の歴史的研究と地方長官会議関係文書」『岡山県立記録資料館紀要』第三号、二〇〇八年b
「幣原喜重郎内閣期の『地方総監及地方長官会議』・『地方長官会議』における懇談速記録」『社会文化論集』第五号、二〇〇九年
「吉田茂内閣期の『地方長官会議』における懇談速記録」『社会文化論集』第六号、二〇一〇年
「アジア太平洋戦争期の地方長官会議と昭和天皇」『社会文化論集』第七号、二〇一一年

【史料翻刻】

〔凡例〕

1. 見出し（記事中の小見出しとも）は太字・ゴシック体とした。
2. 旧字体は常用漢字に改めた。
3. 記事中の大活字、太字には、傍線を施した。
4. マイクロフィルムの撮影状態による判読不能文字は■とした。

1 〔『福島民報』一九二七年七月八日〕

本県牧畜の現状に　畏くも聖上の御質問　恐懼して奏上した伊東知事

伊東知事の帰庁談

田中内閣最初の地方長官会議に出席中だつた本県知事伊東喜八郎氏は六日午後七時福島着で帰福した田中内閣の施政方針や会議の模様に就てはその都度報じて置いた如くである、帰庁した伊東知事は七日の午前知事室で会議の感想や土産話について語る

御水田を拝観

二十九日赤坂離宮内苑の水田を拝観した。両陛下には御自ら産業御奨励の意味で二畝歩の田に神刀（カ）、亀の尾、愛国、信州金子紫、上州大里、大場■、雄町、亀治、剣鳥、豊国大場の十種の稲を植させられた。日毎、夜毎農民を思はせらるゝ大御心は陛下の赤子として感激に堪へない

畏くも県下の牧畜に聖上御言葉を賜ふ

更に光栄に感じ恐縮申上げたことは各国務大臣、各府県知事一人々々に拝謁を賜はつて一々各県の事情を御聴き遊ばされた事である。私は本県の主要産業たる養蚕や米麦の産業状態を申上げると直ちに「陛下（ママ）には牧畜はどうか」との御質問を遊ばされたので恐懼して御答ひ申上げた。陛下には二時間余も、御起立遊ばされて国状を御聴取遊ばされたが、よく模様を御承知になつて居られるには恐懼の外はない。陛下の農事、産業関係に関する大御心を機会あるごとに、県下の農民（ママ）対して伝達いたしたい。

地方行政刷新

本県から提出した地方行政の刷新町村吏員の優遇問題については、政府に於ても大賛成であつた。本省に於てそれ〴〵研究をすることになつた

中間機関増置

郡役所廃止後の不便は屡報の如くで知事の全部はいづれも、中間機関の設置を要望してゐた、田中内閣はこの問題については重大なる問題として考慮してゐたから近き将来に於て何等かの善処策を講ずるであらう。

普選と県会議員選挙

来る九月施行される、県会議員選挙について政府は、普選の精神の徹底を期し公平な取締をなし完全に行使せしめるやうの意見方針であつた、干渉は絶対になさず公平なる取締をせよとは田中内閣の方針であつた。

銀行合同問題

銀行合同については大蔵省から話があつた、現在の銀行の状態から見て合同は必要である、何等かの機会を得て銀行業者と懇談したい。

2〔『福島民報』一九二八年六月二三日（夕刊）〕

加勢知事御下問奉答に就て　富田勘之丞氏談

地方長官会議のため上京中の加勢本県知事が廿日宮中に召され御賜餐の砌特に全国代表的蚕業国の故を以て本県蚕糸業につき畏くも天皇陛下より御下問に相成り知事は恐懼感激せられ此の光栄ある御下問に対しつぶさに現況を奉答し　御聖旨の次第を當日直に電報にて拝承致し知事の面目と本県蚕糸業の面目を切実に考へ同時に此光栄とする面目を実質的に表現せしめ以て

御聖旨に答へ奉らなければ相成らぬ事を痛感しました私は先年紅葉山御養蚕所の拝観を許され皇后陛下御自ら蚕飼の業にいそしみたまひ範を国臣に御示し賜ふその実況を拝観し、今春は実業功労者の故を以て新宿御苑に御催しの観桜会に御召しの光栄に浴し渥き　聖恩に感激致しましたが加勢本県知事が着任匆々蝟集せる公務を割いて伊達の蚕業を視察せられ何か期する処あらるゝその着眼点の■敏なるに敬服致したそうして本県蚕糸業の将来採るべき施設方針の一端を漏らされたが偶這般本県知事に特に蚕糸業の御下問ありし等想ひ合すると吾々当業者に大なる鞭韃を御与へ下された様に感ずる然も来る十一月は昭和御聖代の御大典を行はせらるゝ実に吾国民幸筦の礎を新たにつくらるゝ紀念すべき御目出度機会に際会し蚕糸業に励めといふ

御聖旨を知事を通して拝承する事はその意義極めて深長であるは勿論吾々県下当業者と協力一致是非蚕糸業の合理的改善、組織的発展を期さねばならぬ蓋し　聖旨に答え奉る所以と信ずる

3〔『福島民報』一九二八年六月二五日（夕刊）〕

特に本県へ対して養蚕の御下問　財界状態も大蔵大臣へ話した
長官会議を終えて加勢知事帰庁談

地方長官会議に出席し廿五日帰庁せる加勢知事は語る。

◇

「今回の会議に上京し特に感じたることは聖上陛下のいとお健かに渡らせ給へ国産の奨励に御熱心なことである、赤坂の御田植を拝観した、陸稲四十四坪水稲四坪二分一である。地方長官に対する御下問は何れも地方の実情に適合したことばかりである養蚕について御下問になつたことは長野、愛知の如き主産地を除く全国第三位に当る本県に特に御下問になつたことは感泣に堪えぬ、その場合私は県下の養蚕業について一班を申上げ養蚕資金の融通については特に考慮を要すべき現状にあることを申上げました。

◇

皇后陛下に於かせられても御壮健に亘らせられ学術、技芸、救恤に就ては御奨励になり紅葉山御養蚕所は今年より皇后職にお移しになり皇后陛下御親しく御養蚕のお世話をされるのである

〔以下、地方長官会議の主題と農政・道路起債につき加勢知事の発言内容につき談話〕

4〔『福島民報』一九二九年六月十七日（夕刊）〕

霜雹害事情を御下問に奉答　本県知事より

太田本県蚕糸課長は長官会議に列席する加勢知事に随行して十五日上京したが各長官は十七日宮中に召されて各県の事情に就き御下問ある

為め霜雹害の為め蚕糸県の本県被害は莫大であるから此の点の御下問に奉答する場合の材料を提示する為めであると

5〔『福島民報』一九二九年六月一八日（夕刊）〕

知事の帰庁を待つて建直しの実行へ　県財界に炬火の如く投ぜられた聖慮に一意副へ奉れ

「本県の金融業の状況」に就て御下問に奉答した加勢知事は別項の如く恐懼して語つたが一方留守役の伊藤内務部長は「各方面へ精通遊ばされるには恐懼に堪えぬ。金融方面の御下問に接したのは恐らく本県のみであらう、この上は官民協力して恢復の一路に邁進せねばならぬ。今後はいよ〳〵実行に入るばかりである」と恐懼語つたが加勢知事は二十四、五日頃帰庁の予定なのでその上聖慮に副へ奉るの善処策を考究して伊藤内務部長の言の如くに実行に入ることになる、屢報の如く本県の金融界の不安定は言語の外で加勢知事は着任以来、文字通り寝食を忘れてこれが恢復安定策を講じてゐたが殆んど暗黒の有様であつたが今回聖上陛下の聖慮には県民上下誠に恐懼の極みなので今後は急転直下財界恢復安定に向つて邁進するに至り御下問に副へ奉るであらう

金融状態に就き畏き御下問　たゞ〳〵感激して奉答　加勢本県知事謹話

本日（十七日）畏くも陛下より本県の金融状態に就き御下問を給はりましたので私は一昨年の財界不況に打撃を受けて県下の四五銀行が不振に陥りたるのみならず昨年暮には百七銀行貯蓄銀行が休業し資本枯渇のため県下の養蚕、製糸その他の生産業は一般に不況に陥つて居りますが目下その回復に折角努力中であります、低利資金の利用、産業組合の活動等に依り其発達を図ると共に、当面の問題である銀行の復活救済に努めねばなりませぬが、打撃の程度相当強く、他の銀行の救済も為し難き現状にあるので、県民は全力を盡し回復する覚悟で官民一致、一同努力中でありますから、遠からず救はれることゝ思はれる旨の現状を言上申上げました、洵に空前の光栄でたゞ〳〵感激に堪えない次第であります

県下金融業者に聖慮を伝達　「官民一致回復を期せよ」　伊藤内務部長より

別項の如く地方長官会議出席のため上京中の加勢知事は聖上陛下から本県の金融状況に就いて御下問に接した、その電報に接したる伊藤内務部長は十七日夜直に主務官たる酒井商工課長を始め各部長、各課長にその旨を伝へ更に電報を以て県下の銀行、金融業者に対し尚ほ十八日早朝は県報号外を以て県下百五十万県民に向つて聖慮深遠の程を伝達し官民一致協力して金融業界の恢復を図り聖慮に奉答せん事を促す所あつた

6〔『福島民友新聞』一九三〇年五月二三日〕

養蚕業及び銀行問題御下問　御陪食仰付けられた小柳知事謹んで奉答

【東京電話】天皇陛下には既報の如く二十二日正午宮中に各地方長官を召され御慰労の思召しに依り御陪食仰付られ一同食後千種の間でそれ〴〵各府県知事より三分乃至五分に亘り管下の諸般の事情に就き言上し午後三時十分御前を退下したが光栄に浴した小柳福島県知事は此日の御模様を謹んで左の如く語つた

本県の養蚕業は本年は霜害の為掃立枚数が減少する予定でありましたが其後桑の発育良好であつたので例年通りの掃立てをなし得る旨を申上げました又県下の銀行休業問題に関して目下百七銀行の開業に努力してゐる同行開業の暁は県下金融状態は頗る好転する旨を言上致しました

7 〔『福島民報』一九三〇年五月二九日〕

休銀問題の其後にかしこき大御心を　恐懼言上した小柳知事　帰庁して昨日謹話

地方長官会議のため上京中だつた小柳本県知事は昨報の如く終会後滞京して事務打合せをなし二十八日朝帰庁した浜口総理大臣の訓示を始め会議の模様に就いては既報の如き内容を語つたが主要なる問題と宮中に関することがらに就いて左の如く語つた

聖上陛下には殊の外御壮健にわたらせられ歓喜に堪へなかつた昨年陛下には地方長官に対して御下問あらせられたので今年は知事の方からその府県の重要問題を三分間以内に奏上申上げる事にした。昨年陛下は本県の経済界の模様を御下問遊ばされたので私はその後の経過を言上し安達、貯蓄などの開業を申上げその後、関係者は鋭意着々整理中であることを言上したが陛下には非常に御心配のご模様に拝され恐懼の至りだつた。も一つ本県は蚕糸県として養蚕のことを言上した糸価の暴落を予想されてゐるやうだが掃立枚数も減少せぬやうであり降霜の害も少く、桑葉も良好である旨を申上げた。各府県知事もそれ〴〵重要問題を奏上申上げたがその間約二時間の長時刻を直立遊ばされて誠に恐懼の次第であつた、又、水田と御養蚕所を拝観したが御養蚕所は皇后陛下が御自ら蚕神を祭られ御掃立を遊ばされ殊に国蚕種を御奨励の御思召から、純日本品種の「小石丸」を御養蚕遊ばされてゐる

〔以下、失業対策、国産品愛用、霜害対策など会議の主要議題につき談話〕

8 〔『福島民報』一九三一年五月四日〕

本県の近状に畏き御下問　養蚕業現状と対策を川崎知事謹んで言上

【東京電話】本県知事川崎末五郎氏は二日午前九時から農相官邸で開かれた地方長官会議後、閑院宮邸内の拝観を差許され正午畏き辺の思召により宮中に召され豊明殿に於て御陪食仰付けられ更に千種の間に於て茶菓を賜り安達内相侍立の上拝謁仰付けられ、かしこくも陛下には最近の県情に就いて御下問あらせられ、川崎知事は恐懼して詳さに言上申上げ午後四時宮中を退出したが右につき川崎知事は謹んで語る

本日は畏くも　天皇陛下には御陪食仰付けられ県民と共に無上の光栄に感激して居ります。私は県下養蚕業の現況について言上致しました。現下の養蚕業は糸価低落の結果可成り困窮して居りますが之が対策として先づ生産費の逓減を図るために稚蚕の共同飼育、産繭の共同販賣を奨励し、また肥料の如きも金肥を節約し自作肥たる堆肥の使用等を奨励して居る旨言上致しました。陛下には逐一御聴取を賜りまして感激に堪えない次第であります、また本県は荒廃桑園が六千五百町歩程に及び憂慮すべき状態にあるので本年度から失業救済、農、山、漁村救済低利貸金二百三十八万三千円を借受けこれを養蚕家に転貸して先づ荒廃桑園三千二百町歩の改植を実行し反当

収桑量の増加を図つて居る旨も同時に言上致しまた、官民一致共力して斯業の発展に力を盡したいと思ひます。

9〔『福島民報』一九三二年一月一五日〕

出征兵の家族に対し　聖上、畏き御下問　村井知事謹んで奉答

【東京電話】十四日正午宮中に於ける御陪食に於て御下問に奉答した村井福島県知事は退出後謹んで左の如く語つた

陛下には出征兵の遺家族はどうして居るかとの御下問がありましたので謹んで一同極めて緊張ししつかりした心を持つて業務に励んで居ります旨を奉答した次第であります

10〔『福島民友新聞』一九三二年一月一六日（夕刊）〕

忙しい村井知事　招宴にも出席せずけふから県南巡り　白河で語る長官会議の土産話　町村長会議は早く開きたい

十五日長官会議を終つた村井知事は内相の招宴にも出席せず帰県同日午後十時十分がつちりした男性的な体躯を白河駅ホームに現はした、

【村井知事写真＝省略】各官衙学校長有志数十名の出迎ひを受け角金に投宿一休みの暇もなく同十一時から白河町長主催の歓迎会に臨んだが知事は

私は本県の出身でありますが二十余年他府県を巡つて居たので最近の県内の事情には通じて居りませぬ、何卒幾重にも御指導下さるやう御願ひ致します

と愛嬌ある挨拶をなした、十六日は午前九時出発、鎗田官房主事、内藤町長　佐藤署長等の随行で西郷村役場、白河警察署、土木監督所、蚕業支所、税務監督出張所、町役場、中学校、女学校を始め巡視を為し南湖神神（ママ）に参拝国道を矢吹町に至り町役場、警察署を巡視した後大木酒造店を視察し棚倉町及び石川町の各官公衙を視察して須賀川町に向つた、知事は十六日午前八時角金に於て長官会議の経過を語る

十四日は首相官邸に於て犬養首相中橋内相の訓示、荒木陸相の国民の誠意に対する感謝等がありました、十一時からは宮中豊明殿に於て御陪食の光栄に浴しましたが其時畏くも聖上陛下には特に私に対し「出征軍人の家族はどうか」と御下問がありましたので私は「何れも元気でございます」と御答へ申上げました洵に恐懼感激に堪へない次第でございました十五日は顔を知らなくては困ると云ふので内相官邸で中橋内相、松野次官、森岡警保局長等に面会し種々県の事情等を申して置きました

續いて当面の問題たる町村長会開催に関し

県下町村長会の時期に付ては未だ決定して居ないが成べく早く開きたい帰庁の上早急決定したいと思つてゐる

と語つた

知事初巡視　あす郡山へ

村井知事は中通り初巡視のため今十七日午後九時ころ来郡同夜は郡山市大町太田屋本店に一泊、十八日は和田市長猪狩郡山署長の案内で安積国造神社に参拝それより市役所、農事試験場、専売局、郡山署片倉、小口両製糸、日東、名古屋両紡績その他各官公署を視察する予定である

11〔『福島民報』一九三二年七月二一日〕

其の日の生活にも困る悲惨な様を包まず奏上　御軫念の御摸様を拝し恐懼して退下　赤木知事謹話

〔赤木知事写真＝省略〕

【東京電話】天皇陛下には別項の如く地方長官を宮中に召され御陪食仰せつけられた上、農漁山村及び中小商工業者の現状を具さに御下問あらせられたが右に就て赤木福島県知事は恐懼して左の如く語つた

私は我が県下の漁村も中小商工業者も非常に不況に悩まされて居る実状をつぶさに奏上し特に最も困窮して居るのは農民階級で其中でも養蚕業者は昨今の繭価の暴落に依り非常なる苦境に陥つて居ることを奏上致しました、山間の炭焼業者の如きは殆ど其日の生活にも追はれるやうな悲惨な状態であるのも包まず奏上いたしましたが陛下には是等県下の不況を聴取されいたく御しん念の御摸様に拝し洵に恐懼して御前を退下した次第です（写真は赤来知事）

12〔『福島民友新聞』一九三二年七月三〇日〕

県の緊急土木費未だ確定はせぬ　臨時県会は八月末　赤木知事帰庁談

斎藤挙国一致内閣、初の地方長官会議に臨みその後、東北六県知事と救済事業促進並に西岡庶務課長と共に本県の時局対策計画に就き本省に陳情、打合せ中であつた本県知事赤木朝治氏は在京二週間、疲れの色もなく二十九日帰庁した屡報の如き長官会議の模様や、聖上陛下に拝謁仰せつけられ、窮状はどうであるかとの御下問に対し奉り、謹んで農漁山村、中、小商工業者の窮状殊に繭価惨落による養蚕家の窮迫せる有様、疲弊の農村の実状を具さに言上し併せて極力救済の途を講じ大御心を安んじ奉る旨を御奉答申上げ恐懼に堪えなかつたこと等に就て一通り話した後で本県の救済事業、臨時県会開会期、その他に関し左の如く語つた〔以下、省略〕

13〔『福島民報』一九三三年四月二二日（夕刊）〕

自力更生の自覚起り民心何となく落つく　県の実情を謹んで奏上　御陪食賜つて赤木知事謹話

天皇陛下には長官会議で上京中の地方長官に対し昨報の如く廿一日午餐の御陪食を賜り地方情況を御聴取遊ばされたが右につき赤木本県知事は左の如く謹話した

昨年十一月管内の風水害に対し特に御下賜金を賜はつた御聖恩に対し謹んで御礼を言上しその復旧事業も着々竣工しつゝある実情を奏上致しました又県下の一般状況に就て昨年と今年とを比較して見ると最近青年の間に一致協力して自力更生に当らうとする自覚が著しく生じて来た民心も何となく落着きを見せて来たやうである旨を二三実例を加へて併せて上奏致しました。陛下には多数の私共地方長官の上奏にも拘らず聊かの御疲れの御様子もなきやう拝察されてその政務に御精励の程洵に畏多き極みと存じます

14〔『福島民報』一九三四年五月九日〕

民情に御精通感激に堪へぬ　参内、事情を言上した畑山知事謹話

【東京電話】夕刊所報の如く地方長官一同は正午豊明殿にて御陪食を仰せ付けられ終つて午後一時天皇陛下には千種間に出御、各地方長官は御前に参進し各自県の事情を奏上御下問に奉答申上げる所あつたが退

下後福島県知事畑山四男美氏は左の如く謹話した

先づ昨年八月から東久邇宮殿下が第二師団長として仙台に御赴任遊ばされ福島県にも御巡行遊ばされ特に去る四月二十、二十一の両日に亘り郡山市に成らせられ全県下の青年訓練所、消防組幹部を御親閲遊ばされ県民は非常に感激致しましたと申上げ次で矢吹ヶ原開墾の状況を申上げ県としては宮内当局の諒解を得て早晩開墾を行ふ予定でありますと言上、農民道場を是から建設し県民の模範として農村の復興に盡したいと申上げた所陛下に於かせられては種々御熱心に聴召され其の民情に御精通の程は洵に恐懼感激に堪へませぬ

15〔『福島民報』一九三四年五月一六日〕

新緑の大内山　鯉幟を拝した刹那日本国民の誇りを感じた　滞京十八日の土産話を畑山知事は斯う切り出す

十五日の午後県庁知事室でその室の主畑山本県知事と会見する東京から十八日振りに帰庁していま安楽椅子に身をうづめたばかりの時である、畑山知事は去月二十七日農民道場設置を農林省に説明のため上京して以来県政の重要問題の為に関係方面に折衝し引続いての地方長官会議に出席して既報の通り活躍し朝は早くから夜は可なり遅くまで東に西に奔走したのであるが更に疲労の色も見せず頗る元気である、知事は手帳をめぐり乍ら土産話を始めたがまづ五月端午の節句の朝だつた、僕が二重橋前を通つて宮城を拝した時、大内山の新緑の中、大空高く皇太子殿下の初のお節句を寿ぐ鯉のぼりが流れてゐた、私はそれを拝した刹那思はず胸の奥が熱くなつて感激にむせんだ皇室の弥栄を祈り申上げると共に日本国民である誇りを感じた八日には御陪食を賜はり拝謁を仰せつけられ県政問題を上奏し奉り矢吹ヶ原、安積疏水関係の開墾事業或は第二師団長宮殿下の御来県に依り軍事、産業、教育など御奨励を賜はつてゐる旨を言上し奉つたが陛下には御熱心に御聴取遊ばされ誠に恐懼の極みであつた

と身にあまる光栄を語つて後県政当面の問題について語つた主なるものは左の通り〔以下、農民道場設置計画、国民高等学校視察などにつき談話〕

16〔『福島民報』一九三五年五月四日〕

自奮自励以て聖恩に応へ奉らん　県状を奏上して伊藤知事謹話

【東京電話】御陪食の光栄に浴し県状を奏上し退下した伊藤福島県知事は謹んで左の如く語る

【伊藤知事写真＝省略】

「昨秋の凶作に当つては畏くも聖上より多額の御下賜金あり皇后陛下には乳児に御下賜品があつたに就て県民を代表して謹んで御礼を言上し次で県内の実状に就て奏上いたしました本県は凶作に依つて平年作に百八十万石の米作が六十五万石の減収となり加ふるに繭価は暴落して全国四番目の養蚕県たる本県は一千万円の損害の損失を被り此二重の被害に依つて県民の困窮は甚だしきものあり自分が赴任当時にありては人心為に不安を呈してゐたが幸ひ上皇室の無限の御仁慈と政府並に県の各種匡救施設によつて県民も漸く愁眉を開き今日に於ては人心全く安定の状況に落付いたことは偏に聖恩の然らしむる所であつて県民のひとしく聖代の恵沢に感泣して居る、此上は将来斯る災害があつた場合においても決して動ぜぬやう平素より自奮自励以て十分の用意を

附して置かなければならぬので此点に向つて県民は一層元気をふるひ起して自力更生に努力してゐる次第であることを奏上致しました

17〔『福島民報』一九三五年五月一六日〕

農村生活改善に理想的施設　地方長官会議より帰つた伊藤知事の土産話

【伊藤知事写真＝省略】

上京中の伊藤本県知事は十五日午前三時三分福島駅着で帰福した、岡田内閣初の地方長官会議に臨み閉会後は県政振興の諸問題を携へて関係方面と折衝を重ねたものである、実に半月振りに登庁した知事は疲労の色もみせぬ元気さ、その土産話を聴く。まづ開口一番

「われわれ東北六県の知事は他府県の連中からうらまれたよ、政府は東北の振興にばかり盡力するつてね、やきもちを焼かれた譯さ、そこで東北と地続きの新潟、栃木、茨城、或は長野、山梨、群馬の諸県は準東北の結成をして東北六県同様に政府の援助をうけるんだと頑張つてゐたよ、なんせ今回の凶作で東北が獲得した特権は素晴らしいものだからな、他県がうらやむのも無理はなのさ（ママ）」

「他県の連中が今頃騒ぎ出しても時既に遅い、僕等東北は早や準備期を終へて実行期に入つてゐるんだからね」とばかり、自分等の活動とその奏功さに自慢の気焔を一くさりならべた後で語り出される帰庁談は左の通り

県状を奏上

会議第一日に宮中に参内し御陪食を賜はりその後、聖上陛下に拝謁を仰せつかり県治を奏上するの光栄に浴した、龍顔殊のほか御麗しく拝し奉り恐懼感激のほかはなかつた、昨年の凶作に際し天皇、皇后両陛下、皇太后陛下をはじめ奉り皇族殿下から多分の御下賜金を拝戴した事に就て謹んで御礼を言上した、民心の動揺も今は全く安定し県民は自励一番、窮乏の打開更生に邁進してゐるがこれ陛下の御徳と御同情の賜物である事を申上げ県民を代表して御礼を申上げると共に益々精励する旨を言上し奉つた

〔以下、東北振興計画の一環として設置された生活更新会、高等課廃止、土木部新設、選挙肅正委員会につき談話〕

18〔『福島民報』一九三六年六月二五日（夕刊）〕

御仁慈の光常に民草の上に輝く　県状を奏上し帰庁した伊藤本県知事謹話

地方長官会議に出席のため上京中であつた伊藤本県知事は二十五日久方振に帰庁し会議その他に就て左の如く語つたがまづ会議の初日に宮中に召され御陪食を賜はり更に畏くも拝謁を仰付けられ県治の奏上を聴こし召された光栄に就て謹話する

天皇陛下におかせられては国事御多端の御折柄にも拘らず龍顔殊のほか御麗しく拝し奉つて感激の外はなかつた、私が奏上申上げた県治の要点は今次の雪害の状況を言上した上、これが打開更生のために県民は思ひを一になし行動を同じうし以て自奮自励し雄々しい災害の克服に活躍してゐる旨を申上げた、また二・二六事件に関しては事件の頭初には多少県民の間に不安の気があつたかのやうにも認められるが、其の後、事件の真相が明瞭になるに従つて平静になつた、而して当局は軍民一致に協力し忠勇なる英霊を祀祭する信夫山

招魂社の改築、若松歩兵第二十九聯隊軍旗奉讃会の設立等を提唱し県民の共鳴を得てゐるので県民はひたすら軍民一致の精神に邁進して皇威の発揚に努力してゐる旨を奏上申上げた、陛下には御熱心に聴し召され地方の事情に対し御心を御留め遊ばされる御仁慈には恐懼感激の外はなかつた

19〔『福島民報』一九三七年五月一八日〕

農業より工業へ転換の我福島県　伊藤知事謹話

先づ県下の産業体制に就て昭和五年後最近三ヶ年間に従来農業県であつた福島県が工業県に転換しつゝある状況を申上げました即ち県内の生産状況から見て工産額が農産額に代位しましたこと、是は工場数、職工、労働者にも現はれて居りますし又工業資源として水力の開発も著しく進展して参りまして昭和八年十八万キロワットに過ぎなかつたのが今日三十万キロワットを越え是れが工業に消化されつゝあることであります次に去る四月我が県の〇〇部隊が満洲に出征いたしましたが県民の応援は熱誠を極め銃後の後援にも官民一致遺憾なきやう努めつゝある状況を言上いたしました最後に県案の庁舎は明治十二年の建築にかゝり腐朽其極に達しましたが従来位置の問題等より県政上の論議の焦点となり之れにより流血の惨を見たこともありまして未解決の儘残されて居りましたが人心の統一成り本年度事業として近く起工の運びとなり県治上の多年の癌を取去ることに対し県民も明朗となつて居ります旨を言上いたしました

20〔『福島民報』一九三八年一月二一日〕

軍事救護事業に殊に深き大御心　拝謁に感激　君島知事謹話

【東京電話】君島福島県知事は十九日緊急地方長官会議に列席同日午前九時半、会議出席の他府県長官と共に宮中に参畏(ママ)くも拝謁仰付けられ恐懼感激して退下したが退下後左の如く謹話した

【君島知事写真＝省略】

畏くも聖上陛下に於かせられては御政務御■務御多端の折柄にも拘らせられず吾々地方長官一同に対し拝謁仰せつけられたのは恐懼感激の至りに堪へぬ次第でございます、殊に畏れ多いことながら陛下に於かせられては軍事救護事業に対し御軫念あらせられ特に今回の会議では各般の救護事業に就ての地方官の報告を厚生大臣より上奏せられたるやに洩れ承り皇恩の広大無辺なる唯々恐懼感激の至りで愈々奉公の赤誠を盡し国民と共に粉骨砕身只管大御心を安んじ奉る覚悟でございます今回挙国一致の強化と時局の再認識を要望する為め政府に於て緊急地方長官会議を招集されたことは大に意義深きことで特に各大臣の訓示中にもある如く出征軍人遺家族の扶助その他各般に亘る軍事救護並国内治安の維持に於て万全を期したいと思ひます

21〔『福島民報』一九三八年五月三日〕

有難き御下問　君島知事の謹話

【君島知事写真＝省略】

畏くも　天皇陛下の御前に於きまして事変下の福島県の事情に就て次の如き奏上を致しました所　陛下には実に町村吏員が応召に依つて不足してゐる点に就て有難き御下問を拝しましたことは自治制の下に働

いて居る町村吏員を始め長官たる私とても恐懼感激の極みであります、この上は一身を捧げて県政に努め有難き聖旨にお対へ申上んことを固く心に誓つた次第であります

上奏致しましたのは先づ第一に今次事変の応召者並其遺家族に対し皇室より重ね〳〵優渥なる御慰問を賜はりました事に県民一同恐懼感激致してゐることに就き御礼を言上県下の応召者中戦没者も多数に上りましたが是等の遺家族は何れも長期戦に対処する覚悟の程を固め、元気で奉公申して居りますことゝ福島県は養蚕と、木炭が日本有数の産地となつてゐるが、事変のためこれ等生産の中心となる者が応召したゝめ、有らゆる非常手段を講じ、生産力の減少を防いでゐる、専門家の予想ではいづれも三割方の減産見込みであるが、減産を防ぐ方策として着々各種の施設に努めてゐる、併し農山村の役場吏員が著るしく減少し役場に依ては村長とも三人乃至五人程度の所が多くそれだけの人数で軍事扶助のことから出征者の送り迎へ等一般役場事務の処理遂行上に困難を来してゐることなど具さに奏上致しました所吏員の数が十分でないのは町村に多大の支障を来すことであらうがその数の少いのに対し何とか補充の方法はないものかといふご趣旨のご下問を拝しました

私は之に対しましても農山村の経済不況に依るのが原因の最大のものであるが政府に於て町村吏員の定員数が布かれたら其原因を除去し得ることゝ考へます旨を奏上致しましたが僻村の吏員に至るまで斯く御軫念遊ばされる宏大なる聖慮の程に唯だ〳〵恐懼の極みであります（写真は君島知事）

郷土料理を召されて東北民を偲ばせ給ふ　賜はりし午餐にも郷土色豊か

【東京電話】天皇陛下には曩に秋山司厨長が調査した東北地方の郷土料理を召させられ東北地方民の生活を偲ばせ給ひ種々御下問あらせられたと承るが二日地方長官御陪食に際しては特に東北の常食たる蕨、胡桃、山百合、なめこ茸ねまはり茸、蚕豆、蓮及び東北産の羊肉、柿、蝦蛞、■等郷土色豊な材料を以て調理せしめられ地方長官に賜はり御自らも召させられ深き大御心の程に一同恐懼感激申上げて居る

22〔『福島民報』一九三九年五月三日〕

青年団の改組奏上　君島知事謹話

【君島知事写真＝省略】

【東京電話】地方長官会議に出席の各地方長官は二日午前十時打揃つて宮中に参内天皇陛下に拝謁仰せ付けられ正午豊明殿にて御陪食を賜はり此間畏くも陛下に於かせられては午前、午後に亘り東一間に出席、各地方長官より地方事情の奏上を聴召された福島県知事君島清吉氏は宮中退下後内務省に於て左の如く謹話した

君島知事謹話

本日天顔に咫尺し奉り福島県下に於ける青年乃至青年団に関し奏上致しました、今日の青年団は防空計画の実施、経済統制の徹底或は軍需品の供出に努力するなど修養の外に社会的、国家的任務の遂行に当つて居りますが青年団体の助成金の如きは甚だ手薄でございますので県に於きましては本年天長節の佳節を卜し知事は告諭を発し時局下に於ける青年の覚悟と任務を説いた告諭を昨五月一日附を以て県青年団則、個々の青年団則、青年指導委員会、青年委員会等に

関する規定を公布しました外青年修養道場を新設又は増設し国家活力の源泉たる青年の振興■励を計画せる次第を奏上致しました陛下には畏くも終始御熱心に聴取遊ばされ福島県下に於ける最近の工業の状況はどうかとの御下問がございました私は恐懼致しまして福島県下の近時工業発達の大要を述べまして例へばステープルファイバーの如きは全国の総生産額の七分の一を県に於て生産致して居りますことやアルミニユームの工場が各地に出来つゝありますことや機械製作関係工場が出来て殷賑を極めて居りますことや豊富な電力を持つて居ることに依つて将来取るべき福島県下の工業発達に就きまして奉告申上げましたが大御心の程恐懼感激に堪へ（以下記事採録欠）

23〔『福島民報』一九三九年五月一六日〕

青年団振興運動は平沼首相も激励　課長補充は特任で　君島知事の帰庁談

地方長官会議に出席のため上京中の君島本県知事は十五日帰庁したが左はその帰庁談

畏くも　天皇陛下に拝謁を仰せつけられ県治奏上の折に青年団振興運動に就て言上し奉つた、本県の青年運動案が畏れ多くも天聴に達し奉つた以上は県民協力し計画の達成、効果の向上に全力を捧げねばならぬ、平沼首相は私に対し特に「しつかりやつて呉れるやう」と激励の言葉があり内務省方面でも幸に計画に共鳴し警保局長の如きは特に成功を期待すると援助しまた同僚知事の中にも共鳴者が沢山現はれた、それに就ても責任を感じてやらねばならぬ

◇

地方長官会議の訓示指示事項を伝達の市町村長会議は学務部長会議や経済部長会議終了後、六月中旬頃に開く予定である

〔以下、県官人事につき記者との問答〕

24〔『福島民報』一九四〇年五月三日〕

猪苗代湖々面低下計画を謹みて奏上　聖恩の宏大無辺恐懼感激に堪えず　橋本知事謹話

【橋本知事写真＝省略】

【東京電話】拝謁仰付けられ地方事情を奏上し奉つた橋本県知事は左の如く謹んで語つた

今般地方長官会議に際し御陪食の光栄に浴し特に地方事情御聴取の有難き御沙汰を拝しました私は時局下生産拡充、資源開発の重要性に鑑み主として猪苗代湖々面低下計画に就て謹みて奏上致しました所　天皇陛下に於かせられましては畏くも御熱心に御聴取遊ばされ聖恩の宏大洵に恐懼感激に堪へません謹みて皇室の御繁栄を祈り奉ると共に私共百六十万県民は真に協心戮力して御奉公の誠を盡さなければならぬと固く決意した次第であります

25〔『福島民報』一九四〇年一〇月九日〕

部落常会重要性加ふ　大政翼賛運動と県民一致　拝謁の光栄に感激、橋本知事謹話

【橋本知事写真＝省略】

【東京電話】地方長官会議に出席中の橋本福島県知事は拝謁仰付けられた光栄に感激し左の如く謹話した（写真は橋本知事）

◇
今会議に先だち戦時下政務御多端に渡らせられる聖上陛下に拝謁を賜はり洵に感激の極みです
〔以下、大政翼賛運動の福島県における実践方法につき談話＝省略〕

26〔『福島民報』一九四〇年一〇月一四日（夕刊）〕
福島民報を通じて全県民各位に告ぐ　地方長官会議より帰つて橋本知事語る
去る七、八の両日に亘り本省に於て開催された近衛内閣最初の地方長官会議に出席した橋本知事は十三日朝帰県したが十四日午前九時登庁して次ぎの如く語つた（写真は橋本知事）
【橋本知事写真＝省略】
聖慮に恐懼感激
「畏くも　天皇陛下には国務御多端の折にもかゝはりませず拝謁仰せつけられ、恐懼感激措く能はざるものあり、益々御奉公の決意を新に致しました。
〔以下、外交と大政翼賛運動、大政翼賛会組織、県と町村の中間機関と米穀国家管理などにつき談話〕

27〔『福島民報』一九四一年四月八日（夕刊）〕
湖面低下に関し有難き御下問　江辺本県知事謹話
【江辺知事写真＝省略】
【東京電話】県治状況奏上を終つた江辺福島県知事は左の如く謹話した
我が福島県には現在開墾可能地が四万町歩あるので其の開墾状況について奏上申上げました即ち昭和十五年から開墾に着手した四千六百町歩、県で拂下げを受けた矢吹ヶ原、元御料地を中心とする水田千六百町歩は同様十五年から国営開墾で始めて居る其他猪苗代湖の安積疏水を利用水源とした三千町歩も昨年から開墾に着手して居るが本年は二千町歩植付出来る見込みである尚ほ農地開発営団の手に依れば安積平野に三千町歩会津浜地方に三千町歩計六千町歩が容易に利用田となる、又現在着手中の開墾地四千六百町歩が完成すれば十五万五千石の米を増産することになることを奏上した次第であります、尚　陛下から畏くも猪苗代湖の湖面低下に依つて地方民に差支へないかとの御下問ありましたので私は恐懼して本年の調査に依つて少しも心配はない旨を奉答申上げましたが斯く県下の特殊事情に迄注がせ給ふ大御心に恐懼感激の外はございません

28〔『福島民報』一九四二年三月四日〕
養蚕に就て御下問を賜ふ　江辺本県知事謹話
【江辺知事写真＝省略】
本日　天皇陛下に拝謁仰せつけられ曠古の重大事局下天機益々御麗しく渡らせ給ふを拝しまして感激に堪へません私は福島県より産出する常磐石炭は最近の石炭事情より重大使命を負ふに至り増産に労めて来たのでありますが特に戦時非常石炭増産期間に入りましてからは関係者一同涙ぐましい努力を続け昨年の水害或は労力資材不足等の悪条件を克服又旧正月にも大部分の従業員は休まず入坑して採炭に努めました結果各炭鉱とも政府よりの出炭割当量を相当超過致しまして全国最優秀の成績を挙げ戦時下石炭報国に邁進して居りますことを奏上更に

一月末猪苗代湖面低下本工事竣工致しまして低下前には六発電装置の外なかつた（ママ）発電所だけでも今後は約一億キロワット時を確実に発電し得るやうになり之を火力発電に換算すれば石炭約十一万キロトンの節約になり相当電力界に貢献し得る事になりますことを奏上致しました所、陛下には終始極めて御熱心に御聴取遊ばされましたが畏くも「養蚕の状況はどうか」との有難き御下問を拝しましたので私は謹んで福島県の年生産額は四百万貫でありますが■量増産のため三万五千町歩の桑園の中約一万五千町歩の桑園を減反することになりましたがそれは桑園の改良、養蚕の飼育方法の改善に努力して居りますから従来の四百万貫の生産量を維持出来る見込みであり、やり遂げねばならないことでありますことを奉答申上げた次第であります

29〔『福島民報』一九四二年三月一〇日〕

大御心を拝し我ら県民の覚悟　帰庁の江辺知事謹話

【江辺知事写真＝省略】

地方長官会議のため上京中だつた江辺知事は八日夜帰県したが、十日登庁して左の通り語つた

謹んで御下問に奉答

御下問のあつたことは誠に恐懼感激の至りでありました拝謁を賜つた際私は既に新聞に報道された通り、石城郡内各炭礦の増炭についての状況並に猪苗代湖々面低下により東京市に対する電力補給のことを言上したのでありますが、特に　陛下から「福島県の養蚕はどうか」と御下問があり誠に恐懼感激奉答申上げた次第であります、畏くも上御一人　陛下が斯の如く地方産業に対し御軫念遊ばされる大御心を拝し、私共県民にこの際必死の覚悟で生産維持に当らねばならぬと考へます、自分としても近く此の御下問あつた御趣意を伝達、県民各位と一致協力、増産に邁進する方策を執りたいと考へてゐます

〔以下、時局下官吏の心構え、翼賛選挙方針、食糧自給・増産、南方移住方針につき談話〕

30〔『福島民報』一九四二年一一月一六日（夕刊）〕

戦力増強の一途　庁員に強調、県民の協力求む　長官会議から帰庁荒木知事談

戦力増強に重点を注ぎ十三、四の両日開かれた地方長官会議から帰庁した本県荒木知事は十六日次の如く語つたが

明十七日は午前部課長会議、午後地方事務所長会議を開いて政府の趣旨を徹底せしめ一千庁員一体協力の下に百六十万県民の先達となり百戦必勝の戦力を更に強化米麦を始め主要食糧■に木炭、木材の大増産と供出に■力を結集需給の円滑の度を高める

皇軍の武威により偉大な戦果が挙げられてゐるところが銃後の国民は兎もすると安心感を持ち過ぎる、政府当局及び指導者方面で今次大東亜戦争が愈々これからであることを力説されるやうになつたが武力戦と共に強力に併行されなければならぬ建設戦を予期通り遂行すべき国内戦力の増強は極めて重要なものでありそれには増産一途あるのみである、主要食糧は勿論、軍需資材としての用材の供出、生活必需品たる木炭の増産を第一義として庁内の協力一体を更に強化、行政簡素化による事務敏速を期して県民の増産利便に資し戦力

増張に衝き進む方針である

△

一般県民としてもこの大戦争を戦ひつゝある時下に戦時生活に即してゐるかどうかをとくと反省再認識し挙県的増産戦、国内戦に渾心の努力を拂つて戴きたいのである

31〔『福島民報』一九四三年四月一三日〕

県内事情を奏上　御下問を拝す　覚悟新たに使命達成へ　荒木県知事

【荒木知事写真＝省略】

畏くも十二日　天皇陛下に拝謁仰せつけられ県内の事情を奏上した荒木福島県知事は左の如く謹話した

本日畏くも　天皇陛下に拝謁仰せ付けられ県治の一班に就て奏上するの光栄を得ましたことは洵に恐懼感激に堪えぬ次第であります、曠古の大戦下　天機愈々御麗しく終始御熱心に御聴取あらせられました聖慮の程拝し奉り唯々感泣の外ないのでありまして我等県民は益々粉骨砕身御奉公の誠を致し趣旨に応へ奉らんことを固く決心致しました

農林、水産物の増産

本日奏上申上げました要旨は本県は石城地方より石炭を、猪苗代方面より電力を関東地方に提供して戦力増強に寄与して居りますが今後果すべき使命は農林、水産物の増産確保にあり青少年の応召、徴用による労力の不足と金肥の配給不足を克服することが今日の農村にとつて最も緊要なることでありまして農村産業の奨励に努めて居ります情況

「馬産福島」の飛躍へ

又本県は馬産地として世に知られてゐますが支那事変のため相当多数の徴発があり著るしく県内飼養頭数を減じましたがその後増産に努めた結果北海道に次ぐ生産県となつたのみならず漸時改良を加へ軍馬としての有能馬を関東及び九州方面にまで供給してゐること、並に主要産地以外の地方に多数の飼養を奨励して名古屋以東の第一の生産県となつたと

さらに緬羊を増殖

又緬羊の飼養を養蚕地帯に奨励した結果急激に増加し内地は勿論満州、蒙疆、北支等に種羊として供給し消費府県内の緬羊改良増殖に一役を果たすと共に生産羊毛は軍需用として提供して居ること斯様に有畜農業を普及奨励以て労力の不足、肥料の不足を緩和することに努めて居り今後とも一層努力を重ねると言ふことに就て右の如く申上げました所畏くも　天皇陛下には「桑園の整理並にその跡作は如何か」と御下問あらせられたのであります

こぞつて堆肥増産

本県は昭和十五、六両年度に於て凡そ一万町歩の整理を致しましたが繭の生産に於ても出来得る限り従前の産額を確保すると共にその跡作に麦を植ゑてこれも増産を図ることに努めてゐることを申上げましたが聖慮の程洵に畏き極みで本年こそは戦時下本県に課せられました使命を完全に果し得る様最善の努力を致す様覚悟を新たに致しました次第であります

32〔『福島民報』一九四三年四月一八日〕

大御心に誓つて誠　戦力増強へ団結　荒木知事全県民に要望す

【荒木知事写真＝省略】

地方長官会議を終つて十七日朝帰県した荒木知事は同日正午登庁、議会の結果についての感想並に今後の戦力増強に対する県民の心構へについて左の如く語つた（写真は荒木知事）

産繭確保と麦の増收

会議の劈頭畏くも拝謁を賜はりましたことは既に新聞によつて御承知のことゝ賜ふが私は現下の自給肥料と労力不足に関連して県内の有畜農業を奏上申上げました処、　陛下には特に桑園の整理と跡作についての御下問があり恐懼感激奉答申上げた次第であります、自分と致しましては今後飽まで　陛下の大御心を奉戴し桑園が減つたと致しましても、政府から割り当てられた産繭の確保に努力する考へであります、又これと同時に跡作の麦増收についても戦時下主要食糧増産のため県民各位と共に協力完遂を期す覚悟であります

必勝不敗の信念固し

今回の会議に指示された事項は何れも議会を通過した諸政策の伝達と今後の戦力増強についての政策方針を明かにしたものであるが、東條総理は非常な元気で戦争する必勝不敗の信念を示されたことは吾々としても実に力強い感じを抱かせられたたゞ戦争を勝ち抜くためには、今年と来年が何と云つても重要な年であり、国民は挙つて勝ち抜くために一億一心の強力体制を確立せねばならぬ、その意味に於て本県としては政府から割当てられた米、木材、木炭、繭等の生産確保に真剣な努力を傾倒せねばならぬこと勿論である

供米に示せ純忠精神

米の問題については、昨年は本県としては珍らしい豊作であつたにも拘らず政府米の供出が全国的の最下位といふ不成績にあることは誠に遺憾とせねばならぬ、勿論この不成績を来した一因としては県としても一部の責任はあるが、しかし戦争完遂のためにはそうした理屈を言つて居られぬ場合である飽まで県民の純忠精神に訴へて政府割当量の供出を完遂するやう農家の方々の協力を求めてやまぬ次第である県としてはこの際供米運動の一層強化をはかり自分としても直接農村に赴いて事情を述べ農民各位に了解を求める覚悟である尚ほこれと共に代用食として甘藷馬鈴薯等の増産も極力奨励し出来るだけ米の補充をはかりたいと考へる

木材、木炭の供出も

更に木材の供出については昨年の成績は甚だ芳しくなかつたが、これは機構改革等の関係もあると思ふので今年は此の機構を充分に活かして立派な成績を挙げるやうにしたいと思ふ、又木炭についても生産高においては生産者各位の熱意昂揚により目標額に近い好成績を挙げたのであるが供出成績はこれ又、余りよいとは申せなかつた、此のことについても、尚ほ一層県民各位の協力を希つて生産増加と共に供出の成績も挙げたいと思ふ

本県の使命まさに重大

東條総理の話を聞いて昨年来国内の重点産業は何れも上昇線の一途をたどつてるとのことで（ママ）、我々は日本の底力の強いことがはつきり判つて大いに意を強ふしたのである、このことは総理の云はれる不可能を可能とする国民の愛国心によること勿論である今や全国的に斯うした戦力増強の成績が目覚ましい躍進を示してゐる秋であり本県民としても県の使命である農産物の増産に全力を傾倒、■■を遮二無二切り抜ける覚悟で邁進して貰はねばならぬ、この点特に百七十万県民各位に

協力を訴へてやまぬ次第である

内相奏上

湯沢内相は十七日午前九時三十分宮中に参内　天皇陛下に拝謁仰付けられ過般開かれた地方長官会議の御礼とその成果に就き奏上、御前を退下した

農奏相上

井野農相は十七日午後一時半宮中に参内　天皇陛下に拝謁仰せ付けられ一般食糧事情並に米穀木材供出状況に就てそれ〴〵委曲奏上種々御下問に奉答した

33〔『福島民報』一九四四年八月二七日〕

真に総力を結集　聖慮に応へ奉れ　知事謹話　県民の奮起要望　畏き御言葉に感泣

【石井知事写真＝省略】

小磯内閣初の地方長官会議に出席した石井知事は会議終了後農商、運通、大蔵各省当局を歴訪して県政当面の諸問題について報告打合せを了し二十五日夜九時二十二分着下りで帰福したが二十六日朝登庁、新聞記者団と会見の上「今回の会議に際しては地方長官一同が参内して畏くも列立拝謁の光栄に浴し、しかも特に有難き御激励の御言葉を賜はつたことはたゞ〴〵恐懼感激の他ありませぬ、我々地方長官の職にあるものは勿論、県民各位もこの有難き大御心を体してこの際奮起一番従来に倍して戦力増強に粉骨挺身御奉公申上げ御聖慮に報い奉らねばならぬ」と冒頭左の如き謹話を発表して未曽有の難局打開のため一死奉公の鉄石決意を表明して県民の一段たる奮起を要望した

「今回の会議に際し　天皇陛下には特に吾々一同に拝謁を賜はり且つ優渥なる御言葉を賜はりましたことは誠に恐懼感激に耐へぬ次第であります、殊に

「戦局危急皇国ノ興廃繫ツテ今日ニ在リ汝等地方長官宜シク一層奮激励精皇運ヲ扶翼スベシ」

との有難き御言葉をいたゞき、御軫念の程を拝察申上げ何とも恐懼の極みと存じます、此の御言葉を拝しましては誰か感奮興起せざるものがありませうか、吾々地方官として御奉公申上げるものは、たゞ一死報国、真に総力を戦争完遂に結集して必らず決戦に勝ち抜き御聖慮に応へ奉るのみであります、この際県民各位におかれても更に従来の奮闘に倍して戦力増強に、生産の拡充に邁進せらるゝことを希ふ次第であります」

聖旨伝達式

今回の地方長官会議に際し畏くも　天皇陛下より賜はりたる御激励の御言葉に対し恐懼感激した石井知事は全県民に対し此の有難き御聖旨を伝達し百六十万県民一丸となつての一段たる奮起を要望するため特に滞京日程を繰り上げて帰福したが二十六日午後一時から県庁全庁員を県会議事堂に参集せしめ聖旨伝達式を挙行、席上石井知事から畏くも今回の地方長官会議に際して　聖上陛下から戦争遂行に対して異例とすべき有難き御言葉を賜はつた、聖慮深遠洵に恐懼感激に堪へぬ次第である、今や戦局は日に重大を加へ実に容易ならざる局面に当面致してゐるの際地方官吏として職に奉ずる我々に真に聖慮の有難きを体し広く全県民の垂範として卒先力行、奉公の赤誠を発揮し、県民と共に一致協力戦力増強、生産拡充への推進たることを期さなければなら

ぬと訓示を行ひ、県民に対する直接垂範としての官吏心構へ昂揚を力説した、尚ほ地方事務所長四市長、町村長会議も開いて広く聖旨の伝達を行ひ、県民の一段たる奮起に俟ち聖慮に応へ奉ることとなつた

34〔『福島民報』一九四四年八月二九日〕

戦ふ猪苗代湖の状況具さに奏上　畏し、上聞に達す本県事情　石井知事謹話

過般開催の地方長官会議の石井知事は奏上書を以て管下事情を奏上したが特に決戦日本の心臓とも云ふべき猪苗代湖が湖面低下工事断行後軍需生産増強への原動力としてまた食糧増産方面への利用状況について奏上申上げたところ今回畏くも上聞に達したので同知事は重ね重ねの光栄に恐懼感激二十八日次の如く謹話した

石井知事謹話

今回地方長官会議に際しましては過日申上げました如く特に拝謁を賜はり且つ優渥なる御言葉まで賜はりましたことは誠に恐懼感激に耐へない処でありますが、更に管下事情に関し奏上書を以つて上聞に達することを得ましたことは何とも光栄の至りであり恐れ多い極みであります従来恒例地方長官会議に於いて拝謁の際管下事情の奏上を申上げて居りましたが今日は書類を以て申上げることに相成つた次第であります、私は猪苗代湖の湖面低下後の状況を中心として食糧増産の上にまた軍需生産の原動力としての電力の上に猪苗代湖が如何に働いてゐるかを申上げ特に農民が国家的見地にたつての努力につき御説明を加へ多年の問題たりし湖面低下断行後の成績良好たることを申上げた次第であります

全県民に聖諭伝達

去る二十参日開催の地方長官会議に際し、畏くも　天皇陛下より賜はりたる有難き御言葉に対し恐懼感激した石井知事は一億挙げて聖諭を拳々服膺国体護持に邁進すると共に戦力増強を期して決死奉公の覚悟を新にせねばならぬとなし広く百六十万全県民に畏き聖諭を伝達することになり一日頃を期して県告諭を発することになつたがつゞいて二日は午前九時から県会議事堂に地方事務所長、警察署長、動員所長等に対し三日は午後一時半から県下市町村長を県教育会舘に招集して聖旨並に地方長官会議の趣旨伝達式を挙行することに決定した但し警戒警報ありたる場合は解除ありたる日の翌日参集に変更される

軍需相訓示

藤原軍需相は廿八日午後一時本館に課長以上を招致し全国地方長官に対し賜はつた優渥なる御言葉を伝達し更に之に関し廿六日小磯首相から発せられた内閣訓示につきそれ〴〵部内全般に対し伝達方に遺憾なきことを要望し執務上に於ても指導上においても率先軍需産生者の陣頭に立ち皇国必勝の道を堅めるべき旨の訓示を行つた

35〔『福島民報』一九四六年六月一六日〕

陛下農作を御心配　酵母肥料もお尋ね　石原知事賜謁

天皇陛下は十五日午前十時謁見所で大村内相を初め地方長官会議に参列の各地方長官に賜謁された石原本県知事は柴野滋賀、林鳥取両県知事とともに県下一般農作について実情を申し上げたが、陛下には正午頃まで終始御熱心に御聞きになり再三の御下問があつた

◇

陛下には賜茶の際石原知事の奏上申上げた県下農作並に肥料状況に対しさきに本宮町青年団が宮城内菜園に施用した酵母肥のことにつき、県下における利用状況はどうかとの御尋ねがあり知事はまだ全面的普及となるまでには到つてゐない、今後更に一段の研究努力を致したい旨御答へした

知事奏上要旨

県下の麦については農民非常な努力にも拘らず肥料不足で思はしくなく、馬鈴薯は目下順調だがこれも肥料不足でこれから先きは非常に心配である、稲の方は天候順調のため苗代状況も良好だがこれも肥料の点で懸念してゐる、甘藷は今年は種も他県に移出する程度になつてゐるため六千六百町歩植付の見通しがついた、養蚕は何分戦時中桑園が整理され五カ年計画を樹て戦前復帰に努めてゐる

【知事謹話】陛下は各農家が食糧増産のため非常に困つてゐることを御心配になり柴田酵母菌を利用してゐるかとのお話であつたので、本県ではまだあまり利用してゐないが目下農事試験場で試験研究をつゞけてゐるからその試験の結果、効果あるやうでしたら全県に普及したいと申しあげた、食糧増産には何といつても肥料の増産が最大要件なので、今後は堆肥その他の自給肥料増産にうんと力を入れ一粒の米でも多くとり大御心に応へ奉らんことを固く誓つた次第であります

36〔『福島民報』一九四六年一〇月三一日〕

石原知事酵素肥を再び奏上

天皇陛下は卅日地方長官に賜謁後宮内省講堂に御出になり東北・北海道、関東、東海、北陸、近畿、中国・四国、九州の七ブロックに別けたテーブルを次々と廻られて各ブロックの長官と膝を交へ陛下を中心にした円卓会議の形式で地方事情を御聴取になり農民生活状況、食糧事情等については幾度も御下問があり各テーブルで約十五分位づつ各長官の奏上を御聴きになり正午近く御退席になつた　陛下の御下問は約卅五、六項目に及び齋藤山梨県知事に対しては「新憲法を県民は如何にみてゐるか」安井東京都長官に対してはゼネスト問題を、楠瀬広島県知事には広島復興につき、また木村京都府知事には京都の物価高につき、島根、山口、福岡各知事に対しては引揚者の状況などそれ〴〵各地の特殊事情について等多岐にわたり、石原本県知事は前回拝謁の際御下問を賜はつた酵素肥の農薬への利用についてその後の研究結果を申上げた

なほこの日宮内省では行幸先でよまれた御製の二、三を地方長官に伝へたが地方長官はそれ〴〵手帳に認めて思召のほどに感激してゐた、その御製は左の如くである

御製　災害地を視察したる折に

戦のわざわひうけし国民をおもふ心にいでたちて来ぬ

わざわひを忘れてわれを出むかふる民の心をうれしとぞ思ふ

国をおこすもとゐとみえてなりはひにいそしむ民の姿たのもし